

【多文化共生2】

持続可能な社会を生きる

【実践者】

氏名	加藤 瑞穂	学校名	美浜町立美浜東小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	6年1組（12名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024年12月～1月（6時間）		

実施概要

01 実践する教科・領域

家庭科

02 単元名と単元目標

単元名：持続可能な社会のために

単元目標：世界と自分の生活がつながっていることを実感し、消費者の立場から自分にできることは何かを考え、実践する。

関連する学習指導要領上の目標：日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

03 単元の評価規準

① 知識・技能	自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解している。
② 思考・判断・表現	環境に配慮した生活についての物の使い方などに問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	家族の一員として、生活をより良くしようと、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

04 単元設定の理由・単元の意義

家庭科は、児童の生活に身近でとても大切な教科である。今回、国内研修で学んだことを活かすのに最適な単元が「持続可能な社会を生きる」であり、その学習を通して様々なことを学んでほしいと考えた。今後、人々が地球で共生していくためには、1人1人が地球を良くしたいという意識をもつことが大切である。そのために授業では、「消費者の立場として何ができるか」を考えることに焦点を当てることにした。研修では、バングラデシュの良さをたくさん知ったが、劣悪な労働環境や環境に配慮のない工場や建物が非常に問題になっていることが衝撃的だった。「持続可能な社会」をテーマにしているので、ま

ずそのような実態を児童が知ること、そして日々の生活で何ができるかを考え、実践していくことを目的として授業づくりを行った。

〈児童/生徒観〉

真面目な児童が多く、普段からとても熱心に授業に取り組んでいる。しかし、自分の意思を表出することが苦手な児童が多いため、授業にはグループ活動を多く取り入れ、自分の意見を発表する機会を多くとるようにした。

美浜の小学校では、総合の時間で年間を通して持続可能な社会について考える取り組みを行っている。そのため、SDGsについて大まかな知識は持っている。しかし、具体的な目標や取り組みについては知らない児童が多かった。

〈指導観〉

私たち消費者の普段の行動は、持続可能な社会をつくるために非常に重要であることを知ってほしい。一人一人が意識を持って行動することで未来を変えることができるということを伝えたい。そのために、生活に最も身近である「食」や「衣服」などの消費行動に焦点を当てた。食や衣服を生産する過程には労働問題・環境問題など様々な問題がある。まずは、その課題を知り、消費者としてどのように行動すると良いのかをじっくり考えていきたい。

05 単元計画（全6時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動
1	生活と身近な環境の関わりについて調べよう	生活と身近な環境の関わりに気づく。	・教科書のフォトランゲージを見て、自分たちの生活が環境に与える影響を考える。 ・問題点と影響についてグループになって話し合う。
	資料・教材など 教科書のフォトランゲージ・ワークシート		
2	持続可能な社会って何だろう？	持続可能な社会の視点から生活のあり方を考える。	・前時で話し合った内容を共有する。 ・動画を視聴し、地球上で起こる様々な問題について学習する。
	資料・教材など NHK for school（放置しないで！地球温暖化）・ワークシート		
3	私たち消費者にできること ～食編～	「食」の問題点を知り、消費者としてできることを考える。	・「バナナ」に焦点を当て、生産背景にある労働問題・環境汚染について学習する。 ・ジグソー学習を行い意見共有する。
	資料・教材など 自作資料・ワークシート		
4 本時	私たち消費者にできること ～衣服編～	「衣服」の問題点を知り、消費者としてできることを考える。	・バングラデシュの縫製産業に焦点を当て、生産背景にある労働問題・環境問題について学習する。 ・衣服を買う時に消費者としてできることを考える。
	資料・教材など 自作資料・ワークシート		
5	実践計画を立てよう	日々の生活で自分にできるベスト3を考え、	・普段の自分の生活を振り返り、改善できることを考える。

		実生活の中で実践できるようにする。	・3つに絞り、意見共有する。
	資料・教材など	ワークシート	
6	実践を発表し振り返ろう	実践したことを共有し、振り返る	・実践内容をグループで共有し、学習内容を振り返る。
	資料・教材など	ワークシート	

06 本時の展開（4 時間目）

本時のねらい：本時のねらい：私たちの身近な「衣服」が生産される背景を知り、消費者として多角的な視点を持つことができる。

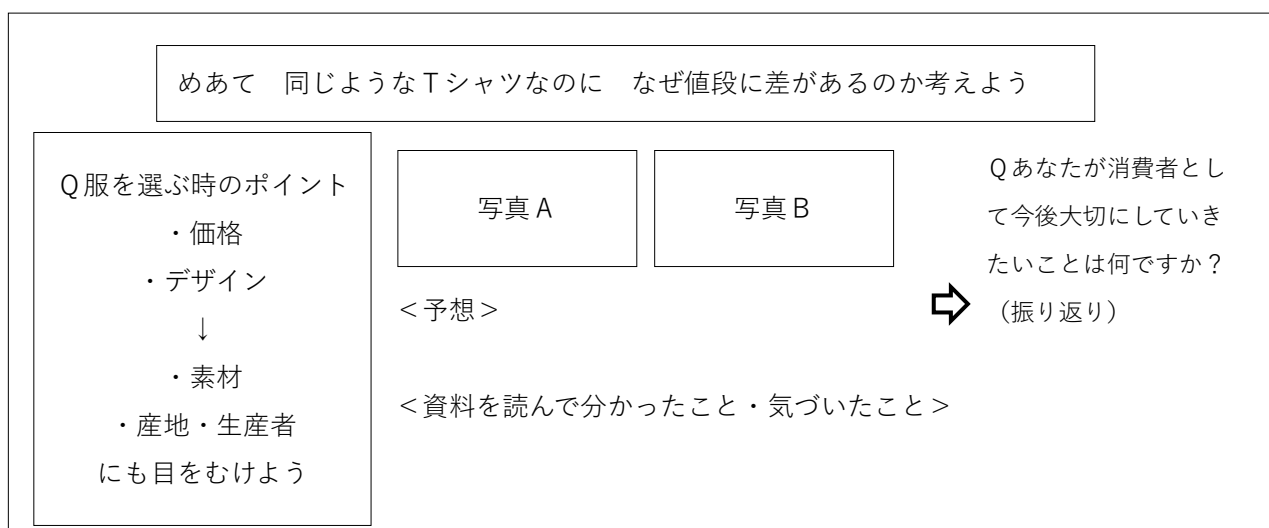
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入（5分）	T：あなたが服を買うときに重視しているポイントは何ですか？ ①価格 ②デザイン ③流行 ④素材 ⑤着心地 ⑥産地 C：価格が1番かな C：似合う服が良いからデザインも大事 ・自分たちが衣服を購入するときにもつ視点を振り返り、「価格」「デザイン」などの表面的なことに着目することが多いことを理解する。	○テレビにアンケート結果を提示する。（Google Forms）
展開（30分）	T：あなたはTシャツを買いにきました。AとBどちらを選びますか？（どちらもデザインは同じ） A・Bangladesh製Tシャツ 1000円 B・日本製Tシャツ 5000円 C：安い方のA！ C：Bの方が高いけどなんとなく良さそう 同じようなTシャツなのに、なぜ値段に差があるのか考えよう ・なぜかを予想し、ワークシートに記入する。 C：服を作っている環境が全然違う C：Bangladeshの工場は照明が暗いね C：日本の工場は清潔だね ・AとBに関する資料を読み、ペアと意見を共有する。 ・改めて気づいたことをワークシートに記入する。 ・全体で意見共有を行う。 <資料Aを読んで> C：Bangladeshの人々は毎日深夜まで働いているのに、給料がとても少ない。	○Tシャツのデザインはだいたい同じであることを伝え、値段の差に着目するように促す。 ○縫製工場の写真を掲示する。 ○AとBに関して詳しく書かれた資料を配付

まとめ (10分)	C：エアコンがついていないなど、とても苦しい環境で服を作っている。 C：バングラの人々の給料をあげて欲しい。 <資料Bを読んで> C：国内で服を生産するにはお金がかかるのかな。 C：日本は、品質や安心・安全を大事にしている。 ・ラナプラザ崩壊事故について説明する。 ・映画「メイド・イン・バングラデシュ」の予告編を視聴する。 T：あなたが消費者として今後大切にしていきたいことは何ですか。 ・意見をワークシートに記入し、ペアと共有する。 ・振り返りの発表を行う。	○バングラデシュの縫製工場について多角的に見て理解を深められるようにする。
----------------------	--	--

使用する資料・教材：

自作資料A・B・自作ワークシート

07 板書計画



08 評価規準に基づく本時の評価方法

・授業中の観察・ワークシート

09 学校外との連携（※該当のある場合）

なし

10 学びの軌跡（※児童生徒の発言の変化など）

初めは、自分の消費行動についてほぼ何も考えていなかった児童が多かった。しかし、授業を進めるにつれて、商品や消費行動について多角的な視点を持って考えることができるようになった。

【授業後の児童の感想】

- ・これからは産地などにも注目して服を買いたいです。この前のフェアトレードバナナみたいに、外国でも働いている人に仕事をした量にしっかりと給料を払っている服を買いたいです。
- ・どんな人がどんな思いで作っているのかを思いながら、買うか買わないかを決めたいです。
- ・私はいつも価格を見て服を決めるので、これからは労働環境なども考えて、持続可能な社会にするためにどうしたらいいかを考えて買い物をしたいです。

11 国内代替研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

バングラデシュは急速に経済成長しているが、労働問題・環境問題はなかなか改善されず、国民は苦しい状況下にある。中でもラナプラザの崩壊事故は強く印象に残った。バングラデシュの縫製工場で作られる衣服は日本でも多く販売されており、この事故は他人事ではなく、自分事として考えていかなければならない課題であると感じた。家庭科の授業で、どのように授業に落とし込むか非常に悩んだが、消費者という立場として授業を進めていくことにした。

12 苦労した点

- ・単元全体の学習計画を考えること
- ・単元のねらいを児童に身に付けさせるための授業づくり
- ・児童に思考の変容を与える授業づくり
- ・AとBの資料作成

13 改善点

- ・導入では、服を買う時に大事にしていることを聞いたが、服を買う経験があまりない児童がおり、実感をもって考えられなかった。
- ・「値段の差」を考えることがメインになってしまい、消費者としてどうすると良いか考える時間が短くなってしまった。本題は「私たちは消費者として課題にどう向き合うか」のため、時間配分が良くなかった。
- ・学習課題の落としどころをきちんときめておく良かった。正解はないが教師自身が考えを持っておくことが大切だと思った。
- ・単元名が「持続可能な社会」で目標が「自分でできることを考え、実践する」なので、今日はSDGsのどれを考えるか掲示して最初におさえておく良かった。
- ・SDGs10「人や国の不平等をなくそう」でバングラデシュの人々が豊かな生活ができるにはどうしたら良いか考えさせることができると良かった。
- ・SDGs12「つくる責任・つかう責任」を掲示すると良かった。先進国の人々は安くTシャツが買えるので、「まだ着られるTシャツもすぐに処分してしまう→安く買えるから、まだ着られるTシャツがあるのに、気に入った次のものを買う→買ってもらえるから発展途上国では、安い賃金でTシャツを作る産業が成り立つ」という現状の中で、バングラデシュの人々の賃金を上げるためにはどうしたらいいのか。また、賃金の安いバングラデシュに工場を建ててしまったという経営側の責任が問題でもある。バングラデシュでも質の良い高く売れる製品を作り、賃金を上げることも大切。そのために、安易に安い製品を買わないようにするといいいのかな、でもそれだとバングラデシュの人々の収入が減るのか・・・などモヤモヤする部分をしっかり考えさせたかった。

・児童らが、どうすればバングラデシュの人々が豊かな生活ができるのか、自分たちができることは何かを考え、活発な議論ができると良かった。正解がないからこそ、より良い未来のためにどうすれば良いのか、考えさせたかった。

・1 時間の間に、①バングラデシュの縫製産業の実態を知る②バングラ産の衣服が安い理由を考える活動③消費者としてできることを考える活動、と内容が多すぎて、児童も少し混乱してしまったと思う。何時間かに分けて授業出来ると良かった。

14 成果が出た点

- ・児童らが、外国の労働問題・環境問題を知ることができた。
- ・消費者としての自分の行動を考えるきっかけになった。
- ・消費者としての考え方を改めるきっかけになった。
- ・身近な生活に学習で得たことを活かすことができた。
- ・児童らが活発に意見交換することができていた。

15 自由記述

夏の研修は、非常に濃い 3 日間だった。色々な人々が、色々な面からバングラデシュについて語ってくれた。バングラデシュに熱い想いを持っておられる人ばかりで、話に感銘を受けるとともに自分がこれまで様々なことに無関心で他人事であったかに気付かされた。私自身、日本とバングラデシュのつながりを考えたことがこれまでに一度も無かったが、今回の研修でつながりが沢山あることを学んだ。自分とは「関係ない」と思っていることも、必ず何かつながっている。そういう思いを持つことができるようになった。自分の生きる姿勢を変えることができた素晴らしい機会だったと感じており、この研修を受けることができとても感謝している。また、普段児童と関わる中で私が得た学びを伝えられるように今後も努力していきたい。